



①事業実施報告書詳細

学校名 名張市立北中学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
2h (8/26)	理科室	翌27日の「景観校外学習」についての事前学習。	見学施設の概要について学ぶ中で、電力やガスなどのエネルギーが日常生活にどう活かされているか、また、その施設が町づくりにどんな役割を果たしているかについて確認した。	広い校区のため見学施設の存在を知っている部員は少なかったが、インターネットで施設概要を学習し、動機づけをはかることができた。
8h (8/27)	八幡太陽光発電所・名張近鉄ガス	「町づくりと景観」について学び、地域に愛着をもつ。	施設見学 	歴史的な町並みと近代的な景観は、どのように調和しているのか、町の新たな景観となった「ソーラー発電所」は、名張の町にどのようなかたちで貢献しているのかについて学習することで、産業・景観・町づくりが生活に密着して展開していることに気づくことができた。
3h (8/28)	理科室	学習成果をまとめ、どのような形で全校に発信していくかについて考える。	文化部の主たる発表の場である文化発表会(11/27)に向けて、どのような発表形式をとるか部としての方針をまとめた。	今年度は体育館が耐震化工事のため使えず発表の場が限られているため、部員からは放送・掲示物と様々な意見が出されたが、最終的にはポスターで発表することとなった。
6h (9・10月)	理科室	発表物の作成	毎週火・水・金の部の活動日のうち、水曜日を文化発表会に向けての取組日と	読んでもらえる工夫と内容をどう充実させるかについて話し

			して活動した	合った。
1 h (11/27)	理科室	文化発表会	<p>燃焼物実験、ロボット、尿素の結晶などの発表物とともに「景観校外学習」について発表した。</p> 	<p>見学した生徒のほとんどがこのような大規模な太陽光発電所が地域にあることを知らず、驚いた様子で「これどこにあるん？」と部員に尋ねる者もあった。結果として、多くの生徒にとって、地域と景観について学ぶきっかけとなる発表であった。</p>

②学習指導案（計画段階の指導案）

名張市立北中学校
科学部顧問 松井 伊都子

景観校外学習について

- ①日時 8月27日（木） 近鉄ガス 八幡太陽光見学会&エコッキング
*目的……「町づくりと景観」について、よく知ること・愛着をもつことをねらいとして活動します。

- 9:30 近鉄ガス集合
10:00 八幡太陽光発電所の見学 （発電所までは借上バスで移動）
11:30 近鉄ガスに戻り、エコッキング
石焼き風ビビンバ わかめスープ 黒ごまあんスティック
12:00 昼食・片づけ
13:00 ソーラーカーの作成
14:00 屋外にて試運転
14:30 解散



②振り返り学習

- 9月からの放課後の活動で、以下の点について学習を進めます。
- ・町の景観はどう変わったのだろうか？
 - ・歴史的な町並みと近代的な景観は、どのように調和しているのだろうか？
 - ・町の新たな景観となった「ソーラー発電所」は、名張の町にどのようなかたちで貢献しているのだろうか？

③学習成果の発表

- 10月27日（火）「文化発表会」にて、学習成果を全校生徒や地域の皆さんに披露し、「地域・景観に対する意識の高揚」を図るとともに、「地域に根ざしたアイデンティティ」の形成を全校のものとする。

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
2h	翌27日の「景観校外学習」	見学施設を知る部員は少ないと考	校外学習について

(8/26)	について事前学習する。	えられるため、インターネット等で施設概要について学習し、校外学習の動機づけをはかる。また、地域の産業がどのように景観や町づくりにとけこんでいるかについて投げかける。	意欲が高まったか。また、景観や町づくりに対する関心が高まったか。
8 h (8/27)	「町づくりと景観」について学び、生活の場である地域に愛着をもつ。	歴史的な町並みと近代的な景観はどのように調和しているのか、町の新たな景観となった「ソーラー発電所」は、名張の町にどのようなかたちで貢献しているのかについて学習することで、産業・景観・町づくりが生活に密着して展開していることに気づかせる。	意欲的に活動に参加したか。また、産業・景観・町づくりの有機的な結びつきを理解することができたか。
3 h (8/28)	学習成果をまとめ、どのような形で全校に発信していくかについて考える。	発表発信の形態をどうするのか、部としての方向性を定め、発表のおおまかなデザインについてまとめさせる。	個々の気づきや思いを他に伝えることができ、また、それを集団思考として高めることができたか。
6 h (9・10月)	発表物の作成	全校生徒に伝えたいメッセージについて考えさせ、発表物の内容の充実を図る。	全校生徒を見据えた発表となるよう取り組んだか。
1 h (11/27)	文化発表会	掲示物の説明を簡潔に行い、メッセージ性のある発表となるよう工夫させる。	部員の発表物に対する説明は適当であったか。また、見学した生徒の地域の景観や産業に対する思いは高まったか。

<留意点>

町づくり・景観・産業の三者は、地域を異なる視点から見た結果に結ばれる像である。よってこの三者がバランス良く融合することは、よりよい地域づくりには欠かせない。ここではこの観点を基軸にして、生徒の三者に対する意識を高めたい。

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>子どもたちは地域の中に暮らしているが、その地域に対してはまだまだ受け身的であり、能動的に関わっていく術を多く持っていない。一方、自己を形成する過程、アイデンティティを獲得する過程においては、自分の生まれ育った、または生活する「地域」に対する「愛郷心」の育成が肝要と考える。今回は「科学部」という少人数の活動を起点とした取組となるが、部員の「地域」に対する関心を高め、ひいては文化発表会という場を通じてその思いを全校に広めたい。そのためには「こんな施設があったんだ」という単なる気づきに終わらせるのではなく、どのように地域の発展に貢献しているのかについて目を向けさせ、景観・産業・町づくりが結びついて地域が成り立っていることを認識として捉えさせたい。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>少人数の部員の活動を起点とする取組であったため、全校生徒にどのように伝えていくのかに腐心した。掲示物の作成にあたっては、調べ学習の時間が不足し、また、他の発表物と並行しての取組となったため、多くの時間を当てることができず、部員の思いを十分に伝える内容とならなかった。</p>
<p>(3) 生徒の反応</p> <p>実際に施設を見学した部員にとって、景観や町づくりに対する思いは高まったが、文化発表会での展示をメインとする発表では、その思いの広がりに限界があったのも否めない事実である。例年のように発表の機会がステージであれば、より多くの生徒の学習機会となったであろうと考えると残念である。しかしながら、この取組を進めることで、関連した部員や生徒の地域に対する考えはより深くなり、これまで何気なく見過ごした風景にも意味を見いだそうとしたり、町づくりと産業の関わりについて質問したりするようになっている。通学のバスの車窓から見えるカントリーエレベータについて関心を抱いた生徒があったのもその一例である。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>古くからの農村部、新興の住宅地、造成された工業団地が織りなす景観に囲まれた中学校であるが、そこに勤める教師が地域の成り立ちや特性について熟知しているかと問われれば、安易に首肯できない現状にある。そうした中で今回の取組は、子どもたちの「地域」に対する捉え方を変えるだけでなく、教師のそれも変容させるものであった。今日、「地域とともにある学校づくり」が唱えられているが、その観点からも今回の取組は大変有意義なものとなった。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>今回の取組は、まだまだ発展途上と考えており、今後とも引き続いて「景観」「町づくり」「産業」が一体となって地域がつけられているという認識を育んでいき、それを全校のものとしていきたい。そのためには今回の「科学部」という小集団の取組から、次年度は学年、学校全体の取組へと拡大を図っていきたい。ただ、そうするためには、地域のどこに焦点を当てた取組にするのかが大きな課題となるであろうし、聞き取りなど調べ学習も取り入れていかねばならない。また、関係する職員も部の顧問中心から関連する分掌を中心にして増やしていきたい。そして最終的には子どもたちが「この地域に育って良かった」と思えるようにし、また、地域に根ざしたアイデンティティの獲得に寄与する取組にしていきたい。</p>

